

今、自分にできること

南米のアンデスの先住民に伝わっている民話に次のようなものがあります。

森が火事になり、生き物たちは我先にと逃げだしました。

その中で、一匹のハチドリが、くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは、火の上に落とすしていきます。ほかの生き物たちがそれをを見て、

「そんなことをして、一体何になるんだ」と笑います。それを聞いてハチドリは、

「私は、私のできることをしているだけ」と答えました。

(引用・参考「ハチドリのひとしずく」辻信 監修・光文社刊)

ハチドリ以外の生き物も力を合わせて消火に取り組み、一人の小さな力があわさって大きな力となり、火を消すことや延焼を防ぐことができるかもしれません。しかし、ハチドリ以外の生き物は、あきらめや無力感にとらわれて、ハチドリを批判しています。

このお話の森の火事を、現代社会におけるさまざまな問題(人権・環境・貧困・健康など)に置き換えて考えてみると、ハチドリの姿は、非常に示唆に富んでいるように思います。

ともすれば私たちも、社会全体で問題になっているような事象に対して、「自分一人ではできないことはない」「そんなことをして何になるのだろうか」という、前述の生き物たちと同じような考えや気持ちに陥りやすいのではないのでしょうか。

このことが大きな問題なのです。「私にもできることがある」と思えば、行動に移すことができるかもしれません。日常生活を振り返ってみると、レジ袋を断る、感染対策をする、ゴミを分別するなど、「水のひとしずくを落とす」ような機会はたくさんあるような気がします。

さて、このお話から人権について考えてみようと思います。人権は、なくてはならない大切なものですが、普段の生活の中では意識されにくいものでは

ないのでしょうか。しかし、暮らしの中のちょっとした出来事で、例えばよかったのかなど、考えさせられるという場面に出会うことはあります。その問題点に気づき、自分はどうするべきであったのかを考えること、このことこそが、人権を大切にする第一歩ではないかと思えます。想像力を働かせ、相手の気持ちを考えることが、人権を尊重する出発点だと思います。これが、私たちの「水のひとしずく」になるのではないのでしょうか。



市人権推進課(市教育庁舎1階)
TEL 32・2122
FAX 33・3525
Mail:jinkensuishin@city.komatsushima-tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (387) 松並敦子・選

錦にはまだ遠かりき山々の裾を歩めば草もみじあり 立江町 湯浅かや子

点検し補修し一途な労働にライフラインは守られており 横須町 山崎 泰子

冬野菜の種蒔きすれば忙しかり子供の世話をすることがとくに 赤石町 田原トシ子

さつそうと歩きましょうとあちこちに湿布を貼りてスーパーに行く 江田町 深田 伴子

いつまでも暑い暑いと思いきや夜半の虫の音 知らぬ間に秋 間新田町 瀧川 益美

秋風になびく暖簾のすきまより紅葉光り讃岐富士見ゆ 田浦町 西 教明

あれがない、これもないと大騒ぎ夢にまで出る物忘れする 横須町 福島 夢栄

道端に白い彼岸花一本咲く 秋の淋しさそこから始まる 田浦町 太田カツミ

はなみずき枝に残りし赤き実の青空に映ゆ秋昼下がり 松島町 萬野 行子

フェンスに縋りて咲ける朝顔の終りの花はいたく小さし 中田町 松並 敦子